

WELL 通信

社会福祉法人
ウエル清光会

中面特集 / ウエルの今を深掘り!
**自分らしい人生を尊重し
生きた証を残す「ウエルメモリー」**

厨 房 だ よ り

利 倉 清 豊 苑

屋上菜園では12月にかぶや大根を収穫。シチューなどの冬料理を作りました。

日々のお食事は、ウエル清光会のブログでも紹介しています。ぜひご覧ください。

お食事の工夫で 生活に変化を演出

節分には、喉に詰まらないように卵で巻いた恵方巻きや、厄払いのイワシなどを含むメニューをご提供。節分気分を味わっていただきます。

日々の工夫で、季節感や生活の変化を感じていただいていると、たまに気を演出。季節

ウエルグループ

- 清豊苑 [特]
- 利倉清豊苑 [地/デ/グ/小/定]
- 美豊苑 [特/ケ]
- 刀根山美豊苑 [地/デ]
- 輝豊苑 [デ/グ]
- ウエルケアプランセンター

宝塚市

- 宝塚清光苑 [特/デ/グ/小/ケ/定]
- 芦屋市
- 陽光苑 [地/デ/グ]
- バセム西宮 [有]
- ケアプランセンター西宮清光苑

西宮市

[特]特別養護老人ホーム [地]地域密着型特別養護老人ホーム [デ]デイサービス [グ]グループホーム [小]小規模多機能型居宅介護施設 [ケ]ケアプランセンター [有]有料老人ホーム [定]定期巡回サービス

QRコード

事業所 PICK UP | 宝塚清光苑

『私たちがお迎えします!』(左から)田代由香、沼 圭介、永井 望

「介護の質」に妥協せず、
利用者様を笑顔にするサービスを提供します

小規模多機能型居宅介護施設 宝塚清光苑
兵庫県宝塚市仁川団地4-15 0798-81-5586 定員:29名 対応エリア:宝塚市内



より安全性の高い 入浴リフトを導入

宝塚清光苑の小規模居宅型介護では、利用者様に「一日でも長くご自宅で過ごしていただき」ことを目標に、ご家族と連携したきめ細やかなケアに努めています。ご利用期間が長くなり、お一人おひとりの介助量が増加していく中でも質の高いサービスを維持するには、利用者様の安全はもちろんですが、職員の安全を守ることも大切です。そこで、1月には入浴リフトを導入しました。これまで職員が抱えて行っていた入浴介助を安定性の高い機械で行えるようになり、利用者様にはこれまで以上に安心して湯船にゆっくり浸かっていただけます。また、職員の負担を軽減すると同時に、体力の有無に関わらず多くの職員が入浴介助を行えるようになったことで、今後はさらにきめ細やかで安定したサービスの提供が可能になると考えています。



密な情報共有で 利用者様をサポート

施設内でもご自宅と同様に過ごしていただき、ご自宅に戻られた後もご家族の介護がスムーズになるように、当施設では連絡ノートや口頭による情報共有を密に行ってています。連絡ノートには、利用者様の体重や食事量、水分量などを細かく

記録。月に一度は、写真付きの「小規模だより」で、施設内の様子を紹介しています。この取り組みをスタートしてから、「排泄の時間や量なども知りたい」といった、より深い情報を求められるご家族も増えました。連絡ノートの情報量を増やすたり、口頭でも伝えたりと、各ご家族のご要望に応じ情報共有の密度を高めています。この積み重ねによってご家族と職員のより深い信頼関係が築かれており、利用者様をご家族と施設の両輪で支えることができています。

高いプロ意識を持ち 心を込めたサービスを

当施設の自慢は、プロ意識の高い職員たち。利用者様の安全を第一に守るために、クオリティの高い介護が求められます。お風呂や食事をはじめ、どの介助においても妥協をせず、常に最大限に利用者様を想うサービスの提供を心がけています。そのためか、利用者様にも大変ご満足いただいており、帰宅日の夕方になると「帰りたくない」とおっしゃる方や、ご自宅で送迎を待ちきれず「まだ?」と電話をかけて来られる方も。その利用者様の反応を見ると、私たちの介護は間違っていないと実感でき、職員のモチベーションも一段と高まります。今後も当施設は、利用者様と職員が笑顔になれる場所を目指します。

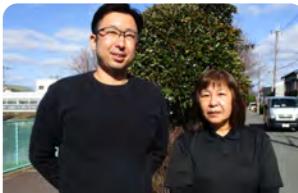


自分らしい人生を尊重し 生きた証を残す「ウエルメモリー」

ウエル清光会では、利用者様お一人ひとりのこれまでの人生を写真と文章で記録し、アルバムを作成する「ウエルメモリー」という取り組みを行っています。その意義や効果についてご紹介します。



パソコンを使ったり手作りしたりと、事業所ごとに工夫も



陽光苑
施設長/大井 憲(左)
庵とよなか庄本
施設長/工藤純子(右)

されている方もいます。その時はエピソードにまつわるイラストを入れています。入居後はイベントなどの度に私たちが写真を撮って追加していくので、内容はどんどん充実していきます。また、事業所によっては手作りで写真を貼つてアルバムを作成するなど各自で趣向工夫を凝らしています。

過去から現在までの人生を 写真と文章で記録

Q ウエルメモリーとは、どのような取り組みですか？

大井.. 施設に入居してからも自分らしく生活していただくために、入居される前から今までの利用者様の人生を写真と文章で記録し、一冊のアルバムに仕上げるもので。当法人は、「利用者様にはウエルに入居して良かつたと思っていただき、職員にはウエルで働いて良かったと思ってもらえる施設づくり」を目指しています。ウエルメモリーは、その一環として数年前に始まった取り組みです。

Q 取り組みは、これまでの生活や仕事のエピソードを聞き取り、写真をお借りして作成するのですが、中には戦争などで写真をなく

したところ、「写真がなかなか集まらない」「スタッフの負担が重い」という課題が見えてきました。ですが、作れないのは非常に残念ですから、できるだけスタッフの負担を抑えつつ、写真がなくとも全ての利用者様にアルバムを作成できるように、工藤さんにフォーマットを作成してもらいました。



ミーティングで改善策を話し合う

その方の人生を知ることが より良いケアにつながる

Q スタッフの反応は？

工藤.. 利用者様のことをより深く理解できるようになります。ケアにも変化が現れていると思います。「こんな仕事をされてたんだ」「昔はこんなに苦労されてたんだ」と分かると、感情移入の深

度が変わるようにですね。認知症が進んでしまい、スタッフに厳しい言葉をかける利用者様に対しても、より寛容な気持ちで受け止めることができている

Q その方の人生を知ることがより良いケアにつながる

大井.. 私も同じことを感じます。例えばある利用者は、夕方になると不安になつてお子さんを探し回つて徘徊するという習癖がありました。それが、今回のウエルメモリーの取り組みを通してケアマネさんやご家族から過去を聞き取る中で、昔はお子さんの世話をよくされていたからだったことが分かったのです。これまで「行つたらダメですよ」という抑制の声かけを行なつていたスタッフが、「お子さん、お部屋にいましたよ」など、その方の世界觀を受け入れる声かけをするようになりました。それがすぐに状態の改善につながるというわけではありませんが、継続することで利用者様も「受け入れてくれている」という実感が高まり、一層安心してお過ごしいただけるのではないかと思います。

Q 全ての利用者様の人生を
一冊のアルバムに記録



写真を眺めて楽しむ利用者様

Q 取り組みの課題は？

工藤.. 利用者様のことをより深く理解できるようになります。ケアにも変化が現れていると思います。「こんな仕事をされてたんだ」「昔はこんなに苦労されてたんだ」と分かると、感情移入の深

た。寝たきりで食事介助が必要な方ですが、記憶が呼び戻されるようです。

大井.. お看取りの際には、ご家族から「施設でもこんなに笑顔で暮らしてたんですね」とおっしゃっていました。すし、アルバムで使っている写真をお葬式の写真にしたいと希望されるご家族もいます。それだけ喜んでいただけますと作成の励みになりますね。

Q その方の人生を知ることがより良いケアにつながる

Q 取り組みの課題は？

工藤.. この工夫が功を奏し、現在は全ての利用者様分のアルバムを作成できている事業所もどんどん増えてきています。

Q 今後の目標は？

工藤.. ウエルメモリーは利用者様の生